

3 階西病棟この1年を振り返って

3 階西病棟科長 工藤 仁美

平成18年も振り返ってみると例年に変わらず、入退院の激しい目のまわるような一年でした。他科からの病床利用の患者さまを除いても、産婦人科・小児科入院患者様の総数は1936人で、昨年の1816人を大きく上回る患者様が利用されました。

産婦人科の入院は767人で、出産件数は妊娠12週以降の流早産・帝王切開も含めて596件ありました。前年の528件に対して約13%の増加であり、近年の少子化傾向に反する結果となりました。これは全国的な問題でもあります。歯止めの利かない道北地域一帯の出産施設の閉鎖が、原因を為しているものと考えます。

その他171人の主な入院理由は、悪阻・切迫流早産などの周産期を中心としたものですが、宮内容清掃術・コンジローマ切除の日帰り入院から、子宮摘出等の手術まで婦人科手術を目的とした方も少なくありませんでした。

小児科入院の患者様の総数は1169人で月平均97.4人となりました。その内訳は、半数を占めるのが各種の感染による呼吸器系437人と、消化器系124人の各種炎症性疾患でしたが、その他数は少ないのですが内分泌・先天異常・血液疾患・喘息他さまざまな疾患による入院がありました。

また、生後7日以内の新生児の入院は192人で小児科入院全体の約16.4%、総出産数に対しては約32%を占めるものでした。理由としては一過性多呼吸・アシドーシス・新生児黄疸・HFD・SFDその他となりましたが、短期間とはいえ呼吸器装着まで至ったケースもありました。

3階西病棟の患者様の平均在院日数は6.6日と短く、そのような目まぐるしく日々入れ替わる患者さまの、入院を迎える当病棟の診療担当は、産婦人科は川村先生・北村先生をはじめ4名の医師と、小児科は室野先生・佐藤先生他交代もありましたが、他2名の医師ら総勢8名によって行われました。

また一年を通して両科ともに常時研修医が居り、いろいろの症例に取り組んでいました。

看護サービスにあたるスタッフは、移動・退職など動きも多いのですが、1年を通して平均26名で助産師・看護師・准看護師・ヘルパー他に病棟担当薬剤師・洗濯室・美装社のスタッフに至るまで、全員が力を合わせて“母と子どもの病棟として安心・安全・確実・満足を提供すること、また入院することがあればひこの病棟へ”といわれる病棟を目指して、看護サービスに取り組んできました。

病棟目標の、看護の継続・パスの活用・院外研修へ年一回以上の参加・自己の看護の振り返りによりキャリアアップを図る。いずれもが十分に達成されずにおわりました。

そして増える分娩に助産師の数が追いつかず、妊娠褥婦に対する指導・サービスの部分では行き届かない部分があることも否めませんでした。まずは何とか事故を起こさずに、“安全で確実に”を最低限度の目標にして、一年間を過ごしてきました。そんな中遠方の彼と結婚したのに退職を遅らせ協力してくれるもの、育児休暇を早々に切り上げ復帰してくれたものなど、色々の仲間たちの協力で綱渡りのようでありながら、大過なく一年を過ごすことができ、3階西の仲間には深く感謝しております。

振替えっての反省としては日々業務をこなすことを余儀なくされるあまり、ひとつ一つのケースの振り返り・深まり・質の評価がなおざりになってきたと反省しています。

来年は、病棟全体にもっと大きな変化が有るとおもいます。足元ばかりを見ず地域全体・社会全体の動きも意識しながら、みんなと3階西ならではの良さ・強みを発揮していきたいと思います。